

国立薬物乱用研究所（NIDA、米国）による概説

（2020年4月2日）

新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的流行期（パンデミック）における 喫煙者や薬物使用者に対する健康影響

米国の国立衛生研究所の一部である国立薬物乱用研究所（NIDA）のノラ・ヴォルコウ所長は、医学雑誌である *the Annals of Internal Medicine* において、新型コロナウイルスによる国家非常事態と薬物使用による中毒死との関係について紹介しています。ヴォルコウ所長は、新型コロナウイルスの深刻な健康リスクが、喫煙者（電子タバコ使用者を含む）、すでに薬物依存状態の人たち、あるいは依存症からの回復過程にある人たちに与える特異的な問題について言及しています。

1. すでに肺疾患を抱えている患者は、新型コロナウイルスによる合併症のリスクが高まる危険性があります。特に喫煙者（電子タバコを含む）、医療用麻薬（オピオイド）や覚せい剤の使用者は、合併症のリスクが高くなるかもしれません。医療用麻薬の常用は、低酸素血症による呼吸抑制のリスクを増加させることで、循環器や呼吸器の合併症の危険性が高まり、結果として急性中毒や死亡につながる可能性があります。もちろん、新型コロナウイルスに対する予防はすべての人たちが行うべきですが、喫煙者（電子タバコ使用者を含む）や薬物使用者（医療用麻薬や覚せい剤）などのリスクの高い集団においては特に注意が必要です。ヴォルコウ所長は、これらの患者において新型コロナウイルス感染による有害事象のリスクが増加する可能性があることを呼びかけるよう臨床医に求めています。
2. 依存症から回復過程にいる人たちは、新たな課題に直面しています。物理的な距離をとる方法は、新型コロナウイルスへの感染リスクを軽減するためには不可欠ですが、依存症の回復に必要な社会的サポートの重要な要素を排除することにもつながります。例えば、オピオイドの依存症患者は、維持療法で使用する医薬品（ブプレノルフィンやメサドン）の入手、または注射器サービスプログラムを受ける過程で障壁に直面するかもしれません。
3. ヴォルコウ所長は、薬物依存者向けのオンラインミーティングを整備することや、オピオイド維持療法で用いる医薬品を自宅に持ち帰るといった新しい試みを推奨しています。とりわけ、薬物依存を抱える人たちは、この危機の中で、社会から忘れられたり、取り残されたりすることがあってはならないと強調しています。

このページは、次の記事を転載し、翻訳しました。

一部、原文に誤記が疑われる箇所があり、該当箇所を削除しました。

（翻訳：国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部）

National Institute on Drug Abuse; National Institutes of Health; U.S. Department of Health and Human Services.

<https://www.drugabuse.gov/news-events/news-releases/2020/04/nida-director-outlines-potential-risks-to-people-who-smoke-use-drugs-during-covid-19-pandemic>